

# イオンスタイル多摩平の森 「ゴミ0」に向けた活動報告

資源ごみのリサイクル活動促進

# リサイクル品として回収してゴミを資源化

イオンスタイル多摩平の森 店舗出入り口など3か所で回収を実施

## 【対象品】

- ①食品トレー②透明食品トレー③牛乳パック④アルミ缶
- ⑤ペットボトル⑥段ボール⑦古新聞⑧古雑誌

# リサイクル品回収実績

店舗名	年月度	紙パック(kg)	トレイ(kg)			アルミ缶(kg)	ペットボトル(kg)	辞退者率			段ボール
		店頭回収量	発泡トレイ	その他	合計	アルミ缶	ペットボトル	辞退者数(件)	客数(人)	辞退率(%)	店頭回収量
多摩平の森店	202304	666	757	1,403	2,160	877	2,128	220,038	249,216	88.292	5,145
	202305	699	811	1,580	2,390	990	2,479	228,273	259,449	87.984	3,587
	202306	676	763	1,519	2,282	972	2,596	220,927	249,733	88.465	2,964
	202307	829	798	1,660	2,458	1,147	3,262	243,871	275,582	88.493	3,783
	202308	814	780	1,582	2,363	1,203	3,002	0	265,849	0	3,339
	202309	703	807	1,444	2,252	1,008	2,752	231,011	261,121	88.469	2,520
	202310	748	900	1,569	2,469	1,009	2,552	24,163	273,027	8.85	2,828
	202311	847	941	1,462	2,402	1,146	2,581	249,665	282,439	88.396	3,066
	202312	898	1,053	1,681	2,734	1,222	2,700	269,952	307,471	87.798	3,975
	202401	805	1,071	1,694	2,765	1,228	2,512	256,564	292,530	87.705	4,063
	202402	794	917	1,546	2,463	1,020	2,251	245,634	278,215	88.289	2,544
	202403	798	1,010	1,656	2,667	1,168	2,620	263,750	0	0	5,672
	年計	9,277	10,608	18,796	29,405	12,990	31,435	2,453,848	2,994,632	803	43,486

# リサイクル回収BOX ①



出入り口に置いてあるリサイクルBOXが短時間でいっぱいになってしまい回収が追い付かないためサイズを大型化して回収を適正に行えるよう350万かけて改修を行って対応しております。



1回あたり大きなごみ袋2個回収。1日あたり10回の回収。計20袋を回収しています。

- ・人件費100万/月  
1200万/年
- ・廃棄業者費用  
800万/年

# 段ボール/古新聞/古雑誌のリサイクル



段ボール/古新聞  
古雑誌は、重量に  
応じてwaonポイン  
トを付与してい  
ます。



不適切な利用者  
もみられるため、  
監視カメラを取  
り付けて適正運  
用を心掛けます



# 紙類のリサイクル

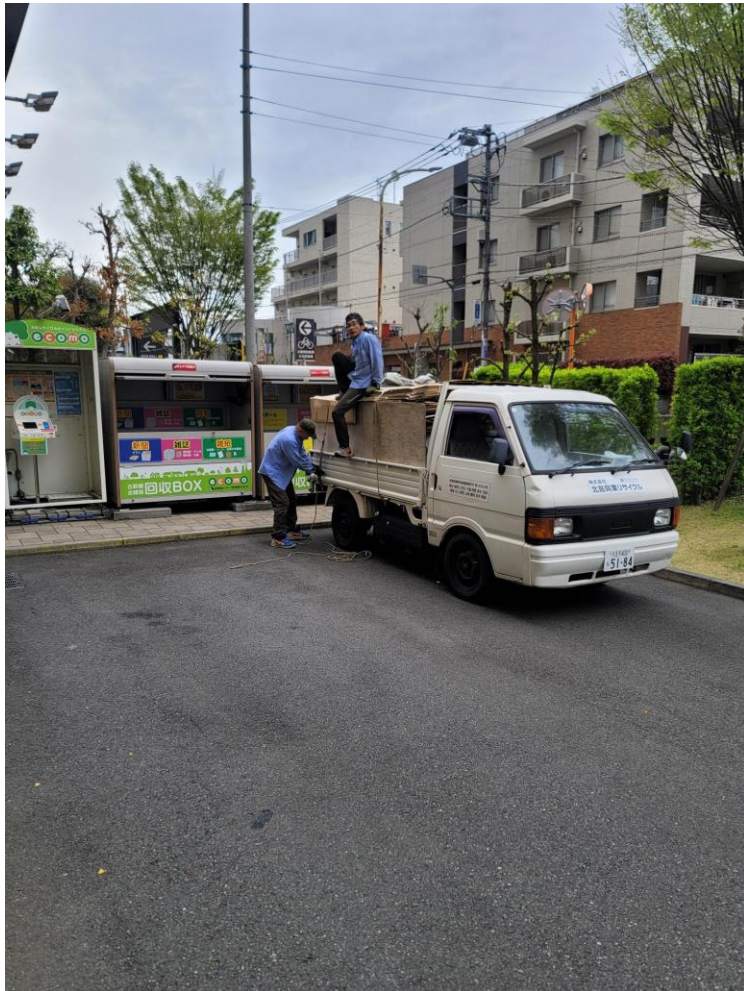


段ボール回収  
古新聞、古雑誌の回収では  
間に異物（ごみ）を挟んで  
あるようなマナー違反が散  
見されます。  
対策として防犯カメラを設  
置して牽制して  
います。



段ボールは、量  
が多いため3台  
のかご車を設置  
して受け入れて  
います。

# 回収業者さんからの聞き取り



回収のサイクルは1日1回（毎日）

引っ越しの時期（4月/9月）は段ボールの量が3倍程度になり回収が追いつかない状況も発生。

資源ごみの回収についてマナーが悪いケースが散見される。

- ・ペットボトル/トレイは洗って出すのがマナーだが洗っていないものがある。→意識の改善活動が必要

- ・段ボール/古新聞/古雑誌は間に異物が入ったままでも出されており、仕分け作業が必要になる。回収した物を集積場に持って行っても働き方改革ということで閉まっていて引き渡し出来ない場合もあり、回収業者さんの敷地で1次保管する必要があるケースが出始めている。

## 【原因】

- ・ゴミを資源として活用するという本質を忘れ、ゴミを企業に渡してしまえば日野市のゴミが減ると勘違いしている市民がまだまだ大勢いるのが実情。リサイクルに関する啓もう活動が継続していくためには必要。